

連

携

室

だより

● ● ● 目 次 ● ● ●

- P1..... ご挨拶
P2..... 受けやすくなった
心臓CT検査の活用と実績
P3..... 入院支援センターで
安心安全な入院生活を支援
P4..... 認定看護師のご紹介
P5-7..... 平成25年度に開催した研修会、
検討会のご紹介
p8..... 新任医師のご紹介
地域医療連携室からのお知らせ

■理 念

赤十字の基本理念に基づき、個人の尊厳および権利を尊重し、質の高い医療を提供します

■基本方針

1. 患者さまの人権と意思を尊重した病院環境をつくります
2. 急性期医療を中心にして診療を進めます
3. 救急医療の充実に努めます
4. 地域の医療機関等との連携を推進します
5. 国内外の災害時の医療救護活動に貢献します
6. 職員の教育、研修を充実させます
7. 健全経営に留意して、その結果を社会に還元します

■私たちは患者さまの権利を尊重します

1. 適切な医療を受ける権利
2. 医療に関して知る権利
3. 医療行為を自分で選ぶ権利
4. プライバシーを保証される権利
5. 人権を尊重される権利
6. セカンドオピニオンを受ける権利

「春近き日光浴のコゲラ」 当院写真部

ご挨拶

日頃より、地域の医療機関の皆様には大変お世話になりありがとうございます。

当院の副院長（兼看護部長）に就任し3年となります。私は看護部門統括に加え、患者サービスの向上や職員満足度の向上、BSC^注の推進、広報などの役割を担っています。

平成26年度の当院BSCの戦略テーマは、昨年度に引き続き「選ばれる病院づくり」です。選ばれる病院とは、患者さんからも職員を含む医療従事者からも、地域の医療機関からも選ばれる病院と定義しています。選ばれる病院を目指してBSCの4つの視点（①学習と成長の視点、②業務プロセスの視点、③顧客の視点、④財務の視点）から戦略目標を立案し、成果尺度・目標値を設定してアクションプランに取組みます。

一昨年度よりエクセレント・ホスピタル推進チーム（リーダー：耳鼻咽喉科 藤田診療部長）を立ち上げ、「職員行動規範」の作成や当院はじめての「全職員満足度調査」を実施しました。平成26年度は、職員行動規範にホスピタリティ（おもてなしの心）が更に伴うように患者満足度向上の強化に取組みます。また、引き続き、地域医療連携を推進するために紹介患者さんの優遇や地域医療機関職員研修の強化、CT・MRIの共同利用を推進してまいります。今年、「旭川クロスネット」を発展させた「たいせつ安心医療ネット」が新たに動きだします。牧野院長は「新たな地域医療の幕開け」と称しており、期待に胸が膨らみます。

当院看護部にも念願の専門看護師（老人看護）が誕生しました。老人看護専門看護師は、認知症や嚥下障害など複雑な健康問題を持つ高齢者のQOLを向上させるために水準の高い看護を提供します。当院では現在、10分野17名の認定看護師が活動していますが、今後、がん看護専門看護師と3名の認定看護師が誕生予定です。専門看護師や認定看護師は医療・看護の質を向上させるためにリソースナースとして活躍することが期待されています。地域の医療機関の皆様にも、是非、専門看護師・認定看護師を活用していただきたく思います。

今後も「選ばれる病院」を目指して頑張っていく所存ですので、どうぞよろしくお願い申し上げます。

注）BSC（Balanced Scorecard）とは戦略マネジメント・システムでありPDCAを回すためのツールとして用いられる。



副院長（兼看護部長）
児玉 真利子

受けやすくなった心臓CT検査の活用と実績

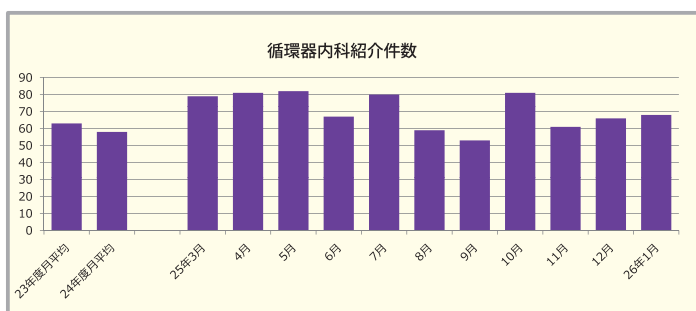
当院は平成25年2月、世界最新鋭・最高性能CT装置・東芝メディカルシステムズ株式会社製・320列エリアディテクターCT Aquilion ONE Vision Editionを導入しています。

従来のマルチスライスCT装置に比べ、放射線被ばく的大幅な低減と、1回転0.275秒までの高速化により64列CTの約1/2と撮影時間が大幅に短縮されました。撮影が16cmと広範囲のため、1心拍での撮影が可能となり、偽画像の影響を最小限に抑えた撮影ができ、ブレの少ない画像で血管内狭窄、ステント内狭窄が明瞭に観察できるようになりました。また、冠動脈CT（冠動脈CT造影検査）による冠動脈疾患の高精度診断も期待され、これまで心臓カテーテル検査でなければ確定診断を行えなかった冠動脈病変の診断に大きな力を発揮します。今までの血管造影（カテーテル検査）で行っていた検査が、侵襲性・拘束時間、また費用等の面でも負担を少なく行えるので、心臓カテーテル検査をためらっていた患者さんでも受けやすい検査だと考えています。

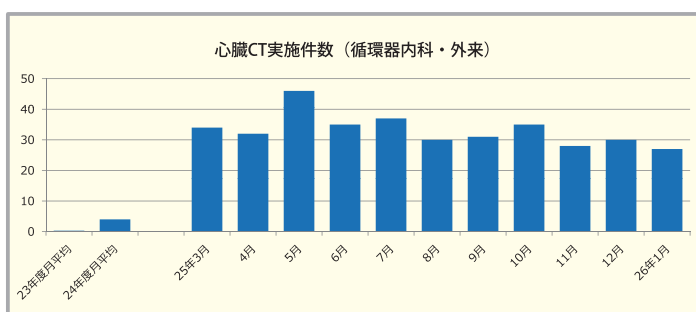
当科は、320列CT装置導入後の平成25年3月以降より紹介件数が増加しており（図1）、

心臓CTについても、外来実施件数は平成24年度4件/月であったが、平成25年度は33件/月と増加しています（図2）。また、PCI（冠動脈形成術）実施件数においても、平成24年度10件/月、平成25年度18件/月と大きく増加していることから（図3）、地域の医療機関より冠動脈病変を疑う患者さんを紹介いただき検査の結果、PCIへつながっていると考えます。少しでも、患者さんの負担を減らし、地域へ貢献したいと思っていますので、今後、冠動脈病変を疑う患者さん（以下のような患者さん）がおりましたら、当科へご紹介ください。

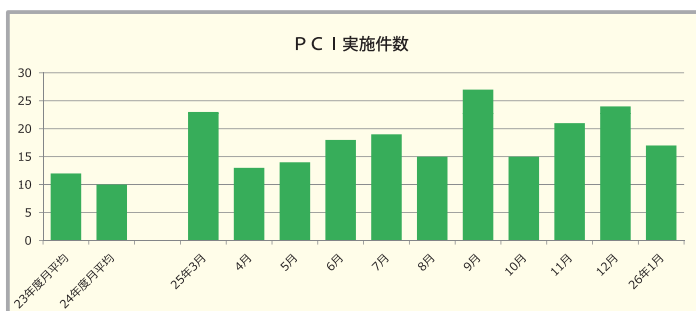
- ・胸痛、胸部違和感を訴える方
- ・冠動脈危険因子を複数有する方（特に糖尿病の方）
- ・心筋梗塞、脳梗塞、閉塞性動脈硬化症の既往の方
- ・心臓突然死の家族歴を有する方
- ・動脈硬化のスクリーニングを希望する方



（図1）



（図2）



（図3）

検査ご希望の場合は、循環器内科の受診が必要となります。地域医療連携室までお問い合わせください。

入院支援センターで安心安全な入院生活を支援

入院支援センター師長 石 田 悦 子

平成25年11月5日から入院支援センターが開設されました。入院支援センターの目的は、入院予定の患者・家族が、入院前から退院後の生活も含めた準備や相談ができ、安心安全に手術を受け入院生活を送れるよう支援することです。対象は、内服薬確認等の準備が多い手術目的の予定入院患者としました。設置場所は、外来棟2階で、可能な限りプライバシーが確保されるよう、パーティションで区切った面談室を2部屋確保しています。



スタッフは、師長1名（兼務）と看護師2名が専従となります。運用は、看護師が患者の基本情報の収集と電子カルテ入力を行い、医事課職員が入院手続きの方法や費用等について説明します。その他必要時、薬剤師やMSWにコールして、持参薬の確認や退院後の介護等の情報提供を行います。

眼科の手術患者から開始し、11月は107名、12月は126名の利用者に関わることができました。12月の内訳は眼科113名、耳鼻科12名、神経内科1名と眼科が主ですが、今後対象科を増やし、一人でも多くの方が入院支援センターを訪れ、入院への不安を軽減できるよう支援したいと考えております。

先日も一度関わった利用者が「わからないことがあったので教えてほしい」と入院支援センターを訪ねられ、市民税非課税対象者の医療費減額の手続きに付いて相談に乗ることができました。病气への不安による外来受診とはまた違う、入院前からの準備や入院生活への不安、退院後の生活への不安などに関わる部署として、利用者の期待にこたえていきたいと考えております。

また、1ヶ月後の評価では、看護業務調査で外来や病棟の間接看護業務の軽減につながり、患者へ直接関わる時間が増えたという評価が得られました。患者アンケート調査では、感謝の言葉や入院



前の準備が余裕持ってでき安心につながった等の意見が多く聞かれました。今後、在院日数がさらに短縮することが予測されるなか、入院前からの関わりで外来・病棟の業務負荷軽減と患者満足度向上につながるよう努力していきたいと思っています。

入院支援センターは、開設したばかりで試行錯誤が続いていますが、地域連携先の病院から紹介される患者との関わりが多い部署ですので、今後ともよろしくお願いいたします。

旭川赤十字病院 認定看護師のご紹介

手術看護認定看護師の活動

今号では、手術看護認定看護師の活動をご紹介します。

手術看護認定看護師は平成26年2月現在、全国に262名、北海道では13名、旭川市内では3名が登録されています。

手術看護認定看護師の主な役割は「手術侵襲を最少限にし、二次的合併症を予防するための安全管理（体温・体位管理、手術機材・機器の適切な管理など）を行う」「周手術期（術前・中・後）における継続看護の実践」です。当院には1名の手術看護認定看護師がおり、手術件数が多い脳外科手術の体位管理や、皮膚排泄ケア認定看護師と共に手術時の皮膚保護に取り組んでいます。

当院の手術看護認定看護師の具体的活動内容を①～⑤にお示しします。

① 手術中の皮膚保護への取り組み

特殊な体位の手術では、局所の皮膚が圧迫され、発赤・硬結・水疱形成などのトラブルが起りやすくなります。皮膚排泄ケア認定看護師と共に皮膚保護・除圧材料を検討し患者体型や栄養状態などに合わせた皮膚保護方法を行なっています。

② 安全な手術体位への取り組み

人口の高齢化に伴い高齢者の手術が増えています。手術体位が原因の関節痛や神経痛などを起こさない安全で無理のない手術体位が取れるよう、現場で教育を行い、マニュアルを作成しています。

③ 手術に関する職員教育

患者さんが術前・術後を過ごす病棟との連携は重要です。病棟看護師を対象に術前準備の必要性や、術中・術後の深部静脈血栓症予防等に関する研修会を行なっています。また、手術室看護師を対象に毎月、皮膚保護・手術体位の事例を紹介し、褥瘡対策の指導を行っています。

④ コンサルテーション

体温管理について、手術時手洗いについて、手術器械の取り扱いについて、手術体位について、手術で使用する除圧材料について、手術時の誤刺・切創予防対策等の相談を受けています。

⑤ 院外活動・学会発表

手術室看護師に向けて日本手術看護学会北海道地区や日総研でセミナー講師、「オペナーシング」「誌上ナースセミナー」「動画で見る手術看護」「器械出しのワザとわけ」「旭赤誌」などの執筆をしています。日本手術看護学会・日本手術医学会・脳神経外科手術と機器学会・日本脳神経外科学会などで発表を行なう傍ら、学会で新たな情報を収集して日々の看護に役立てています。

	氏名(資格取得年)	分 野	コンサルテーション可能な項目
	西澤 佳代 (2007年取得)	手術看護	①体温管理について ②手術時手洗いについて ③手術器械の取り扱いについて ④手術体位・手術で使用する除圧材料について ⑤手術時の誤刺・切創予防対策

平成25年度に開催した研修会、検討会をご紹介します。

◎医療連携の集い

(日本医師会生涯教育講座・日本歯科医師会生涯研修事業)

共催 旭川市医師会・旭川歯科医師会・旭川赤十字病院

後援 北海道看護協会 上川南支部

当院の診療情報などを地域の医療機関の皆様へご紹介いたしました。終了後は、情報交換会を開催いたしました。

第15回 (平成26年2月17日 月曜日 旭川グランドホテル)

演題1 当科における呼吸器内科の診療に関して 呼吸器内科部長 本間 昭彦

演題2 旭川赤十字病院緩和ケア認定看護師の活動紹介

緩和ケア専従看護係長 蟹谷 和子

演題3 当科で行っている網膜疾患の最新治療 第二眼科部長 籠川 浩幸

演題4 旭川赤十字病院脳神経外科における外科治療の現状

第一脳神経外科部長 瀧澤 克己



◎症例検討会

(日本医師会生涯教育講座・日本歯科医師会生涯研修事業)

共催 旭川市医師会・旭川歯科医師会・旭川赤十字病院

地域の医療機関と当院とで、連携し診療にあたった症例についての検討会を開催いたしました。

なお、症例検討会では、発表を行っていただける先生を募集しております。地域医療連携室へお問い合わせ下さい。

第8回 (平成25年9月10日 火曜日 当院)

演題1 子宮内膜症の長期経過観察後に発症した卵巣癌の一例

いしかわ産婦人科内科クリニック 院長 石川 雅嗣

当院 産婦人科部長 玉手 健一

演題2 高齢者に対する腹腔鏡下大腸がん手術

寺澤内科・胃腸科クリニック 院長 寺澤 憲一

当院 外科医師 佐々木剛志

第9回 (平成25年11月13日 水曜日 当院)

演題1 糖尿病網膜症の硝子体手術

山田眼科 院長 大谷地裕明

当院 第二眼科部長 籠川 浩幸

演題2 外来インスリン治療で改善が得られない肥満を伴う2型糖尿病の1例

さかじり内科医院 院長 山縣 一夫

当院 副院長（糖尿病・内分泌内科） 森川 秋月

当院 循環器内科医師 大和田 渉



◎医療機関職員研修会

後援 旭川市医師会、旭川歯科医師会、北海道看護協会 上川南支部

医療法施行規則（平成19年厚生労働省令第39号）に基づき地域の無床診療所などの職員を対象とした研修会を、当院の職員が講師となり、医療安全、院内感染をテーマに開催いたしました。

第11回（平成25年7月20日 土曜日 当院）

演題1 安全に食べるために

6きた病棟看護係長脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 伊藤由紀恵

演題2 意識障害のある患者さんの感染対策として必要なこと

感染管理室看護師長感染管理認定看護師 市川ゆかり

第12回（平成25年10月5日 土曜日 当院）

演題1 がん化学療法時の安全対策

外来化学療法室看護係長 がん化学療法看護認定看護師 谷本知華子

演題2 N95マスク、あなたは正しく装着できますか？

～空気感染に備え、マスクの正しい着用とフィットテスト体験研修～

感染管理室看護副部長感染管理認定看護師 平岡 康子



◎市民公開講座

後援 旭川市、旭川市医師会、旭川薬剤師会、北海道看護協会上川南支部、旭川社会福祉協議会
地域住民の皆さまの健康増進を図ることを目的として開催いたしました。

第9回（平成25年8月24日 土曜日 ロワジールホテル旭川）

これまでのがん治療における実績が評価され、平成25年4月「北海道がん診療連携指定病院」に指定されました。第9回はその指定記念として開催いたしました。

テーマ 「がん」のお話

演題1 甲状腺がんについて

耳鼻咽喉科医師 高林 宏輔

演題2 前立腺がんを早く見つけよう ―P S A検診と治療の話―

第二泌尿器科部長 堀田 裕

演題3 肝臓がんの防ぎかた、治しかた

第一消化器内科部長 長谷部千登美



第10回（平成25年12月7日 土曜日 当院）

後援 旭川市保健所、旭川市医師会、北海道看護協会上川南支部、旭川社会福祉協議会

テーマ 「脳卒中」のお話

演題1 くも膜下出血とその予防

第一脳神経外科部長 瀧澤 克己

演題2 S C U（ストロークケアユニット）はこんなところ

S C U看護師 脳卒中リハビリテーション看護認定看護師 武藤 環

演題3 「脳卒中」―内科の立場から―

神経内科副部長 黒島 研美



新任医師のご紹介

質問項目

- ①診療科
- ②取得指導医・専門医
- ③卒業年度
- ④地域医療機関の先生方へ一言！



イワサキ ツヨシ
岩崎 剛志



- ①皮膚科
- ③平成16年度
- ④一生懸命頑張りたいと思います。
よろしくお願いいたします。

地域医療連携室からのお知らせ

～外来患者様の受診について～

平成26年4月1日より、循環器内科・歯科口腔外科の受診（初診）を希望される患者様は、原則として「紹介状（診療情報提供書）」をご持参いただいた方のみとなりました。紹介状をご持参されない患者様につきましては他の医療機関を受診いただくようご案内させていただきます。

なお、患者様の申し出により、かかりつけ医様、かかりつけ歯科医様がある場合には、紹介状の作成をお電話にてご依頼させていただきますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

～選定療養費が変わります～

当院では、紹介状を持参されない患者様に通常の診療費とは別に選定療養費を請求しておりますが、平成26年4月より次のとおり変更となりますのでご理解・ご協力をお願いいたします。

（3月まで）4,200円（税込） ⇒ （4月より）**6,480円（税込）**

発行／旭川赤十字病院
地域医療連携室

〒070-8530
旭川市曙1条1丁目1番1号
TEL:0166-22-8111(代表)
TEL:0166-27-8585(地域医療連携室直通)
FAX:0166-22-8287
E-mail:renkei@asahikawa.jrc.or.jp